

2023.01.24 シニアクラブ Online 会合報告

今年最初の顔合わせとなり、「新年おめでとうございます」で開始。今年の旧暦正月（春節）は1月22日（日）で、そこから数えればまだ松の内というところです。



NHK大河ドラマ「どうする家康」が始まりました。この一年様々な、家康に関連する本やドラマ、観光地に注目が高まっていくと思います。ということで、今回のテーマは「家康の家族を学ぼう」です。

戦国の世、今川義元の下に半ば人質として預けられた竹千代（家康）が、15歳にして義元の姪に当たる瀨名姫と結婚。子を設けて幸せな家庭を築くも、桶狭間の戦いで主君義元を失い、信長に攻められる中での判断を配下の武将たちから迫られる。まだ19歳の元康（家康）にしてみると最初の「どうする！」だったのでしょ。妻子とは離れ離れで自分が生まれた岡崎城に戻り、義元亡き後の今川家とは縁を切って信長と同盟を結ぶ。名を家康と改め、妻子を取り戻すが、その後もさまざまな難局に直面していくことになります。



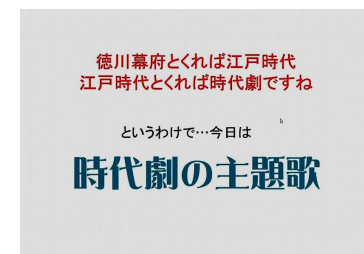
• ということで、今回は家康の両親や子供たちがどのような人生を歩んだのかを眺めてみました。家族の資料は次ページに添付します。

資料の中にある家康の側室「西郷局」が徳川2代将軍、秀忠の生母です。この会合に参加している水戸の西郷さんの出身地が三河なので、遠い先祖と関係があるのでは？

• 続いて、宮田さんから最近の太陽に大きな黒点が生じていること、夕方には、惑星たちが並んで見えていることの紹介がありました。



• 最後は浅見さんの歌でした。テレビでおなじみだった時代劇のテーマソング等4曲が紹介されました。この録画画像の取り出しがうまくいかずyoutubeでの紹介はありません。



• 家康が祖となり260年も続いた江戸時代。このころの平均寿命は50歳ほどと思われていますが、これは無事成人できた人の寿命。子供の死亡率が高く、将軍家でもお家存続のために多くの子供を設けています。次回は徳川将軍家15代の家系を眺めることにしましょう。

今回の参加者は途中退出者を含め11名でした。次回はもっと多くの参加者を期待しています。

2023.01.24 JVCKW シニアクラブ事務局長 田代 周

正室・側室	子	【家康(1543-1616)の正室・側室とその子供たち一覧】 家康父:松平広忠 母:於大(久松俊勝と再婚/久松松平家)
築山殿 瀬名 (西来院) ?-1579 今川家重臣 関口親永娘	長男 信康 (騰雲院) 1559-1579	妻、徳姫(信長の娘1559-1636)は今川の血を引く姑の築山殿との折り合いが悪く、天正7年(1579年)、父・信長に対して12箇条の手紙を書く。手紙には信康との不仲、築山殿は武田勝頼と内通した、と記されていたとされる。家康(浜松)と信康(岡崎)の対立も。
	長女 亀姫 (盛徳院) 1560-1625	天正4年(1576年)、長篠の戦いの戦功で家康からの褒美として、三河の新城城主・奥平信昌(1555-1615)へ嫁ぐ。4男1女を儲け、慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦い後、信昌が奥平氏加納藩初代藩主となり、亀姫は加納御前と呼ばれる。1602年長男家昌は宇都宮藩主に。1614年家昌死去後、幼い嫡男忠昌が藩主を継ぎ、その後見役となった。
西郡局 名未詳 (蓮葉院) ?-1616	次女 督姫 (良正院) 1565-1615	旧織田領の甲斐と信濃を徳川氏が上野国を北条氏が治めることで和睦成立。天正11年(1583年)8月15日、督姫が氏直(1562-1591)の正室に。天正18年(1590年)豊臣秀吉の小田原征伐で北条氏は滅亡。氏直は家康の助命嘆願で秀吉から助命されて高野山に流された。文禄3年(1594年)12月27日、秀吉の肝煎りで池田輝政(1565-1613)に再嫁。
万(長勝院) 1548-1620	次男 秀康 (孝顕院) 1574-1607	母親は正室である築山殿の奥女中。双子説もあり、家康には嫌われていた。信康のとりなしで3歳の時によく家康にお目通り。天正12年(1584年)の小牧・長久手の戦いの後、家康と羽柴秀吉が和睦の条件として秀吉のもとへ養子(実際は人質)後に結城家の養子となり下総結城10万1,000石、関が原後越前北庄68万石に。
西郷局 愛(宝台院) 1552-1589	3男 秀忠 (台徳院) 1579-1632	西郷の局の母の実家・三河西郷氏は土岐氏一族で、室町初期には三河守護代を務めたこともある名家。愛は西郷義勝の継室として1男1女を設けた後、家康の側室になった。家康・秀吉の講和条件のひとつとして秀忠は人質とはならず、将軍後継となれた。
	4男 忠吉 (性高院) 1580-1607	天正9年(1581年)東条松平家第3代当主の松平家忠が病死すると、その家督を継いで三河国東条城1万石を領す。父・家康が関東へ移封後文禄元年(1592年)武蔵忍城主。徳川四天王の一人・井伊直政の娘婿にあたり、直政後見のもと関が原の戦いで初陣を飾る。後に尾張国および美濃国で清洲52万石。28歳で嗣子なく没。弟の義直が後を継ぐ。
竹(両雲院) ?-1637 武田一門	3女 振姫 (正清院) 1580-1617	慶長3年(1598年)豊臣秀吉の命で蒲生秀行に輿入れ。秀行は関が原の功績で会津60万石になるも、慶長17年(1612年)に30歳で急死し、長男忠郷が会津藩を継ぐ。振姫は元和元年(1615年)家康の命で和歌山藩主の浅野長晟と再婚。元和2年(1616年)輿入れして長晟の次男・光晟を産むも、その16日後に死去。浅野氏は現代まで振姫の子孫が存続。
下山殿 1564-1591 武田一門	5男 信吉 (浄巖院) 1583-1603	文禄2年(1593年)に下総国佐倉城10万石を与えられる。慶長7(1602年)、先の合戦で西軍に属した疑いをもたれた佐竹氏に替わり、その領地であった常陸国水戸25万石に。旧穴山家臣を中心とする武田遺臣を配下とする。信吉亡き後水戸は10男頼宣、11男頼房に継がれていく
茶阿局 久(朝覚院) ?-1621 阿茶局 (雲光院) とは別人	6男 忠輝(寂林院) 1592-1683	母(茶阿局)は夫を代官に殺されて家康に子と共に直訴。家康は子持ちの女なら子を産めるだろうとして側室に。面貌怪異として家康から嫌われていたが、弟、松千代の後を継ぎ長沢松平家の養子に。慶長4年(1599年)1月、深谷1万石、慶長15年(1610年)越後高田藩初代藩主へ。慶長11年(1606年)伊達政宗の長女・五郎八姫を正室に迎え、最終的には75万石大名に。元和2年(1616年)、異母兄の将軍・秀忠により改易。幽閉先である諏訪高島城にて死去。92歳
	7男 松千代 (栄昌院) 1594-1599	文禄2年(1593年)長沢松平家当主で深谷藩主の松平康直が亡くなったため、翌年、松千代1歳で長沢松平家を継ぎ、深谷藩主。慶長4年(1599年)1月11日にわずか6歳で没。兄忠輝と双子説もあり。
亀(相応院) 1573-1642	8男 仙千代 (高岳院) 1595-1600	長兄信康の傅役で徳川十六神将の一人だった平岩親吉に嗣子がいないことを憂えた家康の配慮で、親吉の養嗣子になったが、6歳で夭逝
—	4女 松姫	詳細不明(関係資料見当たらず)
亀(相応院) 1573-1642	9男 義直 1601-1650	1603年甲斐甲府藩主→1607年 尾張清洲藩主→1616年尾張藩主(初代)清洲藩を兄 忠吉の死で引継ぎ、清洲藩は家康の考えで尾張藩として名古屋に拠点を移した。
万(養珠院) 1580-1654	10男 頼宣 (南龍院) 1602-1671	兄、信吉死去後、1603年水戸藩主(2歳)→1610年駿府藩主→1619年紀州藩主(初代)。2代光貞の子、吉宗は紀州家5代藩主から徳川8代将軍へ。吉宗3男一橋宗尹の子孫が将軍家を引継ぎ、明治に入り16代家達(一橋→田安→宗家)に繋がる。
	11男 頼房 1603-1661	1606年常陸下妻藩主(3歳)→1609年常陸水戸藩主(初代)。兄、頼将(頼宣)の駿河転封で新たに常陸水戸城25万石を領したが、幼少のため駿府城の家康の許で育てられた。3代将軍家光とは1歳違いで家光との親交も深く、水戸藩は江戸常住の定府となる
梶(英勝院) 1578-1642	5女 市姫 (清雲院) 1607-1610	家康64歳の時の子で可愛がっていた。伊達政宗の嫡男・伊達忠宗と婚約させたが、3歳で夭逝したため、家康は孫娘の振姫(実父は池田輝政、生母が家康の次女・督姫)を秀忠の養女にして、忠宗と婚約させている。梶は秀忠後継問題で春日局と家康のとりなし役。

阿茶局(雲光院)は家康との間に子がなくここには記載していない